

## 第3版の序

がん化学療法は、現在、分子標的薬、がん免疫療法、ゲノム治療と急激な発展を遂げています。新しい作用機序のがん薬物療法薬は、決められたレジメン通りに投与するだけでなく、多岐にわたる副作用を医師、薬剤師、看護師、その他スタッフの多職種チームで対応することが求められています。特に、がん免疫療法（免疫チェックポイント阻害薬）は多くのがん種の標準的治療に組込まれるようになりましたが、複雑な副作用とその対策が課題の1つとなっています。

このような現状を踏まえ、「がん化学療法副作用対策ハンドブック第3版」では、「免疫関連有害事象とその対策」の章を新たに設けました。実臨床ですぐ使用できるよう、フローチャートでわかりやすく、できるだけ具体的な内容にしています。さらに、抗がん剤の種類を解説した章でも多くの分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の内容を追加しました。

一方、併存症のあるがん患者の副作用対策、支持療法の考え方、内容も時代とともに変化しています。がん化学療法の横断的副作用をチームでしっかりと取り組み、対策を立て、がん治療の知識を整理のするために本書を大いに活用していただきたいと思います。巻末資料もより充実いたしました。

本書が「ナビゲーター」としての役割を担うことで、医療スタッフの皆さんが、がん治療という道程を安全に歩み、目の前のがん患者さんが「安心」して治療が受けられるお手伝いができるものと信じております。

2019年10月

千葉西総合病院 腫瘍内科  
岡元るみ子